

投資信託のすべてが見えてくる

なるほど!

投資信託説明書

ガイド

こう ぶ もく ろ み しょ
交付目論見書

よりわかりやすくなった
「投資信託説明書」を活用しましょう!

投資信託の購入にあたって、最低限おさえておきたい事柄をコンパクトにまとめたのが、投資信託説明書(交付目論見書)です。あなたの目的にぴったりの投資信託選びをサポートしてくれる便利なマニュアルです!

投資信託選びの
ポイントに合わせて
投資信託説明書をチェック!✓

POINT
✓ 1 何で運用?

POINT
✓ 2 リスクは?

POINT
✓ 3 実績は?

POINT
✓ 4 コストは?

ナビゲーター
ファイナンシャル・
プランナー

和泉昭子先生

投資信託説明書(交付目論見書)をしっかりと確認・理解しましょう!

投資信託説明書は、投資信託に関する重要な情報を投資家に伝えるための書面です。投資信託を購入する際は、必ず目を通しましょう。

POINT 1 何で運用?

[ファンドの目的・特色]を確認しましょう

このページでは、投資信託の「基本的な性格」を確認できます。

- ファンドの目的**
 - 何を狙う? ファンドがどんな資産に投資するのか、値上がり益による「成長」を重視するのか配当・利子収入による「安定した収益」を重視するのか、また市場への運動を目指すか否かなど、ファンドの骨格を理解しましょう。
- ファンドの特色**
 - どこに投資? 投資対象となるエリアが「国内」「海外」「国内外」のいずれかをチェック。海外の場合は、「先進国」か「新興国」かも合わせて確認します。
 - 何に投資? 収益を生む資産については入念なチェックを。主な資産の種類として、債券・株式・不動産投信(リート)、コモディティ(商品)などがあり、複数の資産に投資するタイプもあります。
 - ファンドの仕組みは? 株や債券などに直接投資するタイプのほか、ベビーファンドが集めた資金を、マザーファンドを通じて投資する「ファミリーファンド方式」も多くなっています。また、複数の投資信託に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」もあります。
 - 分配の方針は? 分配の頻度(毎月、隔月、四半期、半年、1年など)や分配金額に対する考え方もおさえておきましょう。同じファンドで分配頻度を選べるものもあります。

POINT 2 リスクは?

[投資リスク]を確認しましょう

このページでは、基準価額の変動に影響を与える「リスク」について確認できます。

- 投資信託は、それぞれリスクが異なります。どのようなリスクがあるのか、しっかり確認しておきましょう。**
 - 価格変動リスク**

組入れている株式や債券などの価格が変動するリスク。景気の動向や発行企業の業績などの影響を受けます。
 - 為替変動リスク**

為替レートが変動するリスク。外国の資産で運用するファンドでは、一般的に円高になると基準価額にマイナス、円安になるとプラスの影響があります。
- 代表的な資産クラスとの動き**

ファンドの年間騰落率と分配金再投資基準価額の推移

他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

資産クラス	最大値	平均値	最小値
日本株	65.8	4.9	-18.6
先進国株	65.0	15.8	-17.0
新興国株	65.7	20.5	-13.6
日本国債	47.4	9.9	-22.8
先進国債	34.9	2.3	0.4
新興国債	43.7	9.7	-12.4

POINT 3 実績は?

[運用実績]を確認しましょう

このページでは、「運用実績」をグラフなどで確認できます。(新しい投資信託では、ファンドの運用実績はありません。)

- 基準価額・純資産の推移**

投資信託の時価である基準価額は、その水準がいくらかということよりも、値動きの大きさやトレンドを確認することが大切です。投資信託の規模を表す純資産総額は、小さすぎると途中で繰り上げ償還の可能性があるため、順調に増えているものが望ましいでしょう。
- 分配の推移**

運用収益の一部を決算ごとに投資家に還元する分配金は、配当利子収入と売買益が原資となります。そこで、そのファンドがどのように分配を出してきたかをチェック。ただし、分配金が高ければいいというものでもないので注意が必要です。(詳しくは裏面を参照)
- 主要な資産の状況**

投資している資産や通貨の比率、大きなウエイトを占める銘柄などを確認しましょう。割合の大きな資産や通貨を見ることで、そのファンドが有するリスクを推測できます。
- 年間収益率の推移**

年間収益率は、ファンドの価値が1年間にどれくらい上下したかを表したもので、ファンドの値動きの幅などを視覚的に確認することができます。

ココをcheck! 読み方ポイント

ここに注目! 投資信託選び3つのポイント

check! 1 どのエリアに投資するか

一般的に、国内に投資するより海外に投資するほうが、為替変動リスク(POINT2参照)があるぶん値動きの要因が複雑になります。また、同じ種類の資産であれば、先進国より新興国に投資するほうが、リスク・リターンは大きくなります。1国に集中投資するより、複数の国やエリアに分散するほうが、相対的にリスクを抑えることができるでしょう。

check! 2 何に投資するか

長期で安定した運用を望むなら債券のウエイトが大きいファンド、値上がり益を追求する

なら株式の割合が多いものを選ぶのがコツ。リスクの特性がこれらと異なるリートやコモディティ(商品)を組み合わせた分散投資も、一つの方法です。

check! 3 インデックスかアクティブか

投資信託には、市場への運動を目指す「インデックスファンド」と、指標を上回る成果を目指して独自に運用する「アクティブファンド」があります。代表的な指標としては、国内株式なら日経平均株価やTOPIX、外国株式ならMSCIコクサイなどがあげられます。

投資信託選びのファーストステップとして、しっかりと確認しましょう!

ココをcheck! 読み方ポイント

投資家の「好み」と「資金の余裕度」に応じてリスク許容度が変わります。

金融の世界では、「リスクこそがリターンの源泉」という考え方をします。ブランコを空高く漕ぐためには後ろにも大きく下がるが必要のように、高い収益を期待するなら、ある程度大きなリスクを引き受ける覚悟が必要です。

ただし、リスクを引き受ける力は、投資家のリスクに対する好み以外に、年齢や資産・収入などで変わってきます。若い世代でこれから働いて稼げる人や余裕資産が多い場合は「リスク許容度」が高く、株式などを積極的に活用することが可能ですが、年金生活者や収入が不安定なケースでは安定的な運用を心掛けたほうが良いでしょう。

ココをcheck! 読み方ポイント

運用の上手さを見極めるには、基準価額とベンチマークの関係に注目!

投資信託の時価である基準価額は一般的に1万円からスタートしますが、分配金を出せばそのぶん基準価額は下がるので、一概に高ければ良いというものではありません。反対に、同じ種類の投資信託なら基準価額が低いほうが割安というのも誤った認識です。

ベンチマーク(目標とする指標)があるファンドの場合は、基準価額はベンチマークとの関係で見るのがポイント。アクティブファンドで、ベンチマークとなる指標に負け続けていないか、インデックスファンドなら指標にぴったり連動しているかをチェックします。

ベンチマークがあるファンドなら、過去のデータを参考にすることで、そのファンドの運用の上手さを推測することも可能です。ただし、実績はあくまで過去のもの。将来の投資成果を保証するものではありません。

POINT 4

コストは？

[手続・手数料]を確認しましょう

このページでは、購入・換金時の手続きや手数料・税金などについて確認できます。

手続・手数料等

お申込みメモ

○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○
○	○	○	○

ファンドの費用・税金

○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		

○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		
○		

● お申込みメモ

…実際にいくらから買えるのか、あるいはいくらから換金できるのかを、購入(換金)単位や購入(換金)価額で確認しましょう。信託期間や繰上償還の条件も合わせてチェックしましょう。

● ファンドの費用

…投資信託にかかる3つの費用を確認しましょう。

● 購入時手数料

購入時に販売会社に対して支払う手数料です。同じファンドでも販売会社によって手数料が異なる場合もあります。購入時に手数料を取らないノーロードファンドもあります。

● 信託財産留保額

中途解約のペナルティ的な意味合いで、一般的に換金時に負担し、ファンドの中に留保されます。信託財産留保額がかからないファンドもあります。

● 運用管理費用(信託報酬)

運用や管理の費用として、ファンドの残高から差し引かれる手数料です。ファンドを運用する会社、ファンドを販売する会社、資産を管理する信託銀行で分け合います。

● 税金

…分配金と換金(解約)時・償還時の差益に対して、所得税・地方税などがかります。NISA(少額投資非課税制度)やジュニアNISAを利用すると、非課税の優遇を最長5年間受けることができます。

ココをcheck! 読み方ポイント

運用成果に大きく影響する「運用管理費用」に注目しましょう。

中長期で投資をするのなら、最初に一度だけかかる購入時手数料よりも、保有期間中ずっとかかり続ける運用管理費用(信託報酬)に注目しましょう。一般的に、リサーチなどのコストがかかるアクティブファンドは、機械的な運用を行うインデックスファンドに比べて運用管理費用が高くなります。

また、アクティブファンドの中でも、新興国に投資するファンドはコストが高めの傾向があります。手数料が安ければいいというものでもありませんが、投資対象が同じで、実績も同様のファンドであれば、低コストのものを選んだほうが、実質的なリターンは高くなります。



知って得ポイント 分配金

定期的に支払われる分配金は、投資信託の大きな魅力といえるでしょう。ただし、分配金は基本的に配当・利子収入と売買益などを原資としているため、本来、一定の額にはなりません。ところが、投資家が安定的かつ高い分配金を望むことから、ファンドによっては一定の額の分配金を支払い続けているケースも見受けられます。どんなに高い分配金を出していても、基準価額が下がり続けているようでは良いファンドとはいえません。投資信託のリターンは、あくまで基準価額と受け取った分配金の合計額で考えるべきでしょう。

ナビゲータープロフィール いずみ あきこ 和泉 昭子さん

生活経済ジャーナリスト/ファイナンシャル・プランナー。出版社・放送局を経て、フリーのキャスターに転身。NHKを中心に、ニュース・情報番組を担当。95年CFP(ファイナンシャル・プランナー 上級資格)取得後、現職へ。現在は、メディア出演や講演活動などを通じて、マネー情報を発信。早稲田大学大学院ファイナンス研究科修了。女性FPを中心とする専門家集団「プラチナ・コンシェルジュ」代表。

【交付目論見書と請求目論見書】 目論見書(投資信託説明書)には、交付目論見書と請求目論見書の2種類があります。交付目論見書はファンドの基本的な情報が記載されているもので、投資信託を購入する際に投資家に必ず交付されるものです。一方、請求目論見書は、より詳細な情報が記載されているもので、投資家から請求があった場合に交付されるものです。Web上で閲覧することもできます。